

## 議　　事　　録

件　　名	第1回大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会
日　　時	平成28年9月5日（月）13:00～14:40
場　　所	鳥取県西部総合事務所講堂
出　席　者	別紙のとおり

### 1. 開会

（環境省：西首席保護官）ただ今より、第1回大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会を開催します。本日の会議は公開で開催しております。本満喫プロジェクトの推進・運営は、鳥取県、島根県、岡山県、環境省中国四国地方環境事務所が共同で進めて参ります。

はじめに、それぞれの代表から一言ご挨拶申し上げます。

### 2. 挨拶

（環境省：牛場所長）日頃から国立公園行政に御理解、御協力を賜り、また、急なお声がけにも関わらず、お集まりいただき、感謝申し上げる。

政府が本年3月に策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」には、観光先進国への3つの視点の一つに、「観光資源の魅力を極め、地方創成の礎に」を掲げ、10の改革の一つに、国立公園を世界水準のナショナルパーク作りに挑戦することが明記されている。訪日観光客を国立公園へ誘致し、地方創生に貢献することへの期待の表れと認識している。具体的には、新たな訪日外国人旅行者数の目標を国全体で4,000万人に倍増させ、国立公園においては、2015年現在、年間430万人の訪日外国人の旅行者数を、2020年までに1,000万人以上にすることが、新たな目標とされたところ。

環境省では、本年5月に国立公園満喫プロジェクトを立ち上げ、有識者会議における検討を行ってきた結果、特に地域作りに地元が熱意を有する点、オーバーベース対策において先進的な取組事例があることなどが高く評価され、大山隠岐国立公園が、全国で先行的・集中的に取り組む8つの国立公園の一つに選定された。

本日は、本公園の最大の魅力である美しい自然を生かし、より良質なツーリズムを提供する世界最高水準のナショナルパーク作りに挑戦するため、関係行政機関や民間団体からなる地域協議会を設置すると共に、ステップアッププログラム2020と銘打って、具体的な施設整備やソフト事業等の取組方針を年内

にまとめるためのキックオフとなる会議。本プロジェクトの推進には、地域の主体的かつ積極的な関わりと、官民が一体となった総合力が何より重要と考えている。環境省としては、目標達成に向けて、全力で予算措置等に努力すると共に、関係省庁の皆様にも勢力的に支援をお願いしていきたい。

(鳥取県：広田部長) 本日は、島根、岡山、両県をはじめ、関係市町村の方々、観光等関係団体の皆様など、多数ご参画いただき、御礼を申し上げる。

また、鳥取県では、大山牛馬市が今年、日本遺産に登録され、また、国立公園の指定を受けて80周年といった節目の年であり、記念すべき年に国立公園満喫プロジェクトのモデル地区に選定いただき、心より御礼申し上げる。名実共にモデル地域となるよう、しっかり頑張って参りたい。

9月14日から県議会が開会になるが、平成28年度の補正予算として、満喫プロジェクトの関係では2億6千万円程度、平成28年度から32年度の5年間では、20億円規模の予算編成を地元関係市町村の皆さんと調整をさせていただきながら、進めたところ。また、その他についても、未来投資交付金を活用し、地域のビューポイント(VP)の整備等に4億何千万規模の予算を補正あげようとしているところ。事業内容としては、登山道の整備や避難小屋、トイレ等の改修等があり、インバウンドの増加に向けた取組を一生懸命進めたい。

今後の事業推進には、やはり予算が必要であるため、環境省をはじめ、他省庁でもしっかり予算を付けていただくこと、また、本日ご出席の皆様方の引き続きの御協力をお願いしたい。

(島根県：犬丸部長) 全国32か所の国立公園の中で8か所が選定され、その一つに大山隠岐国立公園を選定していただきましたことに、心より感謝申し上げる。選定に当たっては、鳥取県、島根県、両県知事が先頭に立ち、環境省へ熱意をPRすると共に、地元の関係の市町村長からも、環境省に熱意をPRしたところ。共同事務局の一員ということで、その責任の重さに身が引き締まる思い。この公園をナショナルパークという世界水準の公園にするために、関係者が一丸となって、取り組んでいかなければと思っている。

今回、国も環境省だけでなく、国交省、林野庁にもお越しいただいているが、県でも、環境部局だけでなく、観光を所管する商工労働部、道路行政等を所管する土木部もメンバーとして、この会議に加わっている。また、島根県では、隠岐諸島、島根半島、三瓶山地域と、様々な魅力のある場所があり、それぞれの地元を代表する市町村にもメンバーに加わっていただいている。国、県、市町村、それぞれの役割、責任に応じて、一丸となった取組をして、このナショ

ナルパークの魅力アップのプロジェクトを是非成功させていきたい。共同事務局の一員として微力ながら全力を尽くして参りたい。

(岡山県：古南次長) 部長が県議会に行っておりますので、私が代理として出席させていただいている。

今回、大山隠岐国立公園が満喫プロジェクト 8 地域の一つに選ばれたことについては、鳥取県、島根県、両県の御尽力が非常に大きく、岡山県としては、若干の出遅れ感は否めないところだが、この地域におけるこれまでの様々な立場の方々の御尽力、御努力により、豊かな自然の保全、美しい景観の維持が図られてきたことへの評価であると考えている。今回の決定については、蒜山地域を擁する岡山県として、知事も大変喜んでいるところ。

ただ、国立公園の面積に占める岡山県の割合が非常に小さいこともあるせいか、蒜山という地名が公園の正式名称に表れていないということに、真庭市共々、若干の不満はあるが、最近は蒜山という名称も前面に打ち出した PR を進めているところ。このエリアは本県屈指の観光地であり、特に都会の方々には、癒しを提供できる自然の豊かさを備えたエリアであると、胸を張って自慢できる所だと思っている。私も個人的にはこのエリアが大好きで、毎年数回は必ず訪れており、その際には、岡山、鳥取の県境などは意識することなく、豊かな自然と空気とのんびり感に浸っているところ。

このプロジェクトを推進するに当たり、県境を越え、3 県、関係市町村が連携することで、この地域が一体的なものとして認識され、更に魅力がアップし、高い評価を得て、それぞれの地域の活性化につながるという好循環をもたらすことがでればと思っている。地元の真庭市、新庄村共々、よろしくお願ひしたい。

### 3. 出席者紹介

出席者の紹介。

台風 12 号の接近のため、国土交通省中国地方整備局企画部長、隠岐の島町長、隠岐観光協会事務局長（会長代理）は御欠席。

### 4. 会議内容

#### (1) 国立公園満喫プロジェクトについて

(環境省：小林専門官) 資料 1、2、3 について説明。

#### (2) 地域協議会の設置について

(環境省：宮内補佐) 資料 4、5 について説明。

(環境省：西首席保護官) ただいまの説明に対して、意見や質問があればお願ひします。

意見、質問なし

(環境省：西首席保護官) それでは、要綱案のとおり、本日付で大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会を設立することによろしいでしょうか。

拍手

(環境省：西首席保護官) ありがとうございます。要綱の確定版は後日各位に送付いたします。協議会の設立が承認されましたので、これより、具体的な協議会の進め方、今後のスケジュール、VPの想定等の説明に移りたいと思います。

### (3) 今後のスケジュール、ビューポイントの想定について

(環境省：藤重補佐) 資料6について説明。

(環境省：西首席保護官) それでは、各県からそれぞれの地域に係るVP想定についてご説明いたします。今回ご説明するVP案につきましては、あくまで共同事務局による想定案であり、具体的には今後の地域部会等でも議論・検討を要するものでございます。構成員の皆様方にVPのイメージをご理解いただく意味でも、現時点で考えられる想定案としてお示ししているものであることを予めご承知おき願います。

各県からの説明（資料7、8）

(鳥取県：池内課長)

(岡山県：落合統括参事)

(島根県：齋藤課長)

(環境省：西首席保護官) ステップアッププログラムの今後の進め方、各県からの説明に対して意見や質問があればお願ひします。

(真庭市：太田市長) このような取り組みは大歓迎。国立公園は良さを認識してもらって初めてその良さを護れるものだと思う。

- ・VPは確かに国立公園内から見て感動できる場所ということなのかもしれない。しかし、大山と蒜山三座、蒜山高原がきれいに見える場所があるが、ここはおそらく国立公園外なのではないかと思う。どこまでをVPとするのか。あまり広げすぎるとキリがないが、やはりなぜVPをつくるのか、またなぜこういう取り組みをするのか、それは多くの感動を与えるというものだと思う。そういう意味でどこまでをVPとするのか。というのも、蒜山は国立公園エリアが小さい。
- ・これも広げすぎるとキリがないが、岡山の場合は瀬戸内海国立公園とつながっている。インバウンドを考えた場合に日本海から入って瀬戸内海へ、あるいは高知まで行くということも考えて良いのではないか。国立公園を連携させるという発想も考えるべき。
- ・交通不便地であるので、自転車を使うというのも一つの手かもしれないが、高速バスのあり方を考え直すべき。今は大都市と地方都市をつなぐという使い方で、公共政策的な位置づけが弱い。バス会社も含めて考えるべき。
- ・感動させる売り物に統一性があったほうがよいのではないか。トイレがきれいなど、景色以外に感動できる統一性のあるものがあれば良いと思う。

(松江市：星野部長) 中海・宍道湖・大山圏域では5つの市が集まって数年前からインバウンドの取組をしているが、やはりソフト・ハード共に基盤整備がインバウンドを推進する上で、まだできていない。先ほど環境省から説明があったように、国立公園内では WiFi 整備はできるかもしれないが、そこ(公園)へ行き着くまでの空港や駅、港湾などの WiFi や、情報提供にあたっての多言語化の問題がある。

- ・そのような(公園に行き着くまでの)基盤整備についてはどのように考えているか。
- ・国立公園外で整備できるところがあれば教えていただきたい。

(環境省：小林専門官) 空港等から国立公園までの WiFi 整備も重要だと考えられる。だれがどこに設置するといったことも、この協議会で議論できればと思う。また、現時点でどこがだめ、どこなら大丈夫ということは無い状態であり、アイディアを出していただければと思う。基盤整備については地域、民間と協力して進めていけばと考えている。国立公園外の整備に関しては、環境省は手が出しにくいというのが実状ではあるが、本省としても他省庁に

協力を依頼中であり、参考になるものがあれば共有していく。一緒に考えてできることはどんどん取り組んでいければと思う。

(大山町：森田町長) (環境省本省への依頼) 関係省庁における満喫プロジェクトに対する優先順位を上げてほしい。短期決戦で進めていくためにも、予算も含めた働きかけをしてほしい。それが大きなポイントになると思う。それを踏まえていろいろ提案させていただきたい。

(NPO 法人 大山中海観光推進機構：石村理事長)

- ・(環境省本省への依頼) 標識類の多言語化について、多くの言語でごちゃごちゃして見にくいということから、最近では日英のみという地域がある。どのようにするか、全国で統一化すべき。また、ピクトグラムも全国で統一するべき。その方が美しい。
- ・大山隠岐エリアの VP は信仰と関係のあるところ。信仰と重なった風景をただきれいというだけでなく、外国の方にも理解していただけるストーリー（できれば統一したストーリー）をセットすることが必要。
- ・観光客をただ増加させればよい訳ではない。山陰地方では今年の夏はホテルがとれない状況であった。オフシーズンにいかに観光客を呼び込むかが大事（平準化）。

(鳥取県西部総合事務所：中山所長) 自然公園内なので様々な規制がある。一方でたくさんの方に訪れていただくとすれば、整備する上でその規制をどうとらえるかが課題となるが、もともとがより多くの方に訪れていたるという考え方の基で、その辺りの均衡を考えながら調整していきたいと思う。(規制と整備に関して、) 環境省として何か考えがあれば、お聞かせいただきたい。

(環境省：宮内補佐) 今はつきりとしたものがあるわけではないが、規制に関しては既存の制度を変える予定はない。既存の制度の中でも地域ごとに柔軟な対応は可能だと思うし、地域によって自然環境の状況も異なり、個別の判断となる。その辺りも含めて、より地域に根ざした地域部会等で議論していければよいと思う。

(島根県：犬丸部長) 環境省以外の省庁において、満喫プロジェクトに対してどのようなメニューを用意しているか、次回の協議会で示していただきたい。

トップダウン（国からの方針、制度）とボトムアップ（地元からのアイディア、要望）を調和させていければと思う。国が示すことで、闇雲に要望を挙げることなく、現実的に進められる。

VPの整備についても、地域からは多くの要望が挙がってくると思われるが、例えば、その中で、環境省の直轄整備の箇所をどのように選定するのかという情報も、現実的にプロジェクトを進める上で重要。地元の期待をぶつけたとき、どのような答えが返ってくるかということもある程度見通しが立つと、地域部会の議論も違った形になる。

(NPO 法人 大山中海観光推進機構：石村理事長) VPとは全国でこういうところ、という事例を示してもらえばと思う。

鍵掛峠は駐車場ついでに展望台があるという形だが、今後の整備方針として、それ自体が観光地となるような有名デザイナー作の造り込んだ展望台を造るのか、自然公園だからありのままとするのか。

環境省で成功事例があると思うので、それを示していただきたい。

(環境省：牛場所長) VPという用語が少しわかりにくいが、VPは視点場ではなく、重点取組地域という意味で使われている。重点取組地域をどのような範囲で設定すべきかということについては、はっきりしないところがある。その辺りについて本省から何かあれば、説明をお願いしたい。

(環境省：小林専門官) 牛場所長の仰るとおり、VPは視点場ではなく、重点取組地域として使われている。現時点でVPの範囲や1公園当たりの箇所数などの指針はない。敢えて決めず、それぞれの地域に合わせて決めるのが良いのではないかという議論が本省でもあった。

(真庭市：太田市長) VP数を定めず、地域ごとで決めるのには賛成である。蒜山では県が一周30kmの自転車道を整備しており、ある意味ではそれ全てがVP。アイディアを出し合って決めれば良い。

(大山町：森田町長) 大山隠岐国立公園の選定理由はオーバーユースに対する先進的取組である。地域の人々と一木一石運動を続けてきた。国の方では、クールジャパン、インバウンドといった誘客を増やしていくという施策を進めているが、そのような中でも国立公園の美しさを磨いていく、その上で多くの人々の利用に対応できるものをイメージしている。

VPに手を入れていく、そのあとで、どのような形で維持管理していく、ま

た、護っていくという体制、仕組み作り、協賛をそれぞれが視点の中に持っていないといけない。事務局もこの思いをベースに置いてプランニングを組み立てていただきたい。

質の高い方々に来ていただく、と同時に、質の高いものを提供する事だと思う。この考えを共有したい。

質の高い方々に来ていただくことで地元が潤う。また、国立公園のすばらしき体験してもらうことで、国立公園のファンになってもらう、いろいろな形でサポートしてもらう。これによって未来に向かってこのエリアが輝く。

(近畿中国森林管理局：馬場部長) 本庁から満喫プロジェクトへ協力するよう指示があった。満喫プロジェクトのための予算というのは難しいが、関連の予算等で協力できるものはある。特に山頂付近は国有林であり、いろいろなことを進める上で国有林野を活用していただくということになるかと思う。いろいろな制度を活用していただき、改善すべきところはどんどん提案していただきたい。

来年は大山における治山事業 100 周年であり、昭和初期の堰堤も残っており、これも一つの価値となるのではないか。国としてもいろいろな省庁が協力して行っていきたいと思う。

(岡山県：古南次長) これから子会議でステップアッププログラムの中身を議論していくにあたって、交付金と直轄事業について、そのスキームを見せていただけないか。交付金が使えるのはどういったものがあるのか、直轄整備はどのようなものに対応してもらえるのか、を示していただければと思う。プログラム作成の参考にしたい。また、交付金の対象外であれば他省庁の制度を探したい。

(環境省：藤重補佐) 次回の協議会でスキームについては説明できるようにしたい。しかし、直轄整備、交付金事業の枠組みは変わっていない。したがって、現時点では直轄事業となっているものは直轄ができる可能性があり、交付金の対象となっているものは実施できる。

(環境省：牛場所長) 今後のスケジュールに VP はたくさん出てくるが、アクセスルートの議論についても並行して進めていくということでよいか。

(環境省：小林専門官)

資料 3 (4. プロジェクトの実施) に主要交通拠点から主要利用拠点までのア

セスルートに係る事項とある。協議会の中で主要な交通拠点（空港等）～主要な利用拠点（ビジターセンター等）のアクセスルートについて検討していただき、実際にどの主体がどういったことをやっていくかということを考えていただきたい。

(山陰インバウンド機構：福井代表理事) 全国と比較して山陰は宿泊客が少なく、最下位ベース。外国人観光客を呼び込むのが我々（山陰インバウンド機構）の目的とは言うものの、どんどん観光客をお呼びする一方で、先ほどの（大山）町長のお話にもありましたように、地域の皆様方にとって地方創生に繋がるような、いい状態で進めていかなければならない。そういう視点でいくと、VPもアクセスルートも一方的に観光客の方をお呼びするためだけなく、地元の方が体験したくなる、また地元の方が中心に活用できるものにしたい。

(環境省：西首席保護官) 今後は第2回協議会までに共同事務局と地域部会でまとめ、関係者と協議しながら、次回協議会にプログラム案を提示させていただきたいと思います。今後とも協議会は継続いたしますので、関係者の皆様にはご理解ご協力頂きますようお願いいたします。以上を持ちまして、大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会を閉会させて頂きます。円滑な議事進行にご協力いただきましてありがとうございました。